

反弾圧

1969年12月13日
第4号
定価10円

発行所
糟谷君虐殺真相究明
反弾圧委員会
大阪市北区東船場四丁目一
新館十一号 平井方(三七二)八三五七

警察は「糟谷君に頭をたれよ!!」



故糟谷孝幸君

事件発生以来一ヶ月目の今日12月13日、殺人警官を告発する告発状が、大阪地方検察庁あてに発せられた。明日の中央人民報をひかえた今日の告発は我々の新たな宣言であり、新たな攻撃の合図である。

本日(13日)三警官らを告発!

権力犯罪を三たび闘いに舞わせるな!

「発人らの調査によれば……」機動隊の実力制圧は警備法の制約を無視することはおろか、暴虐としかいえないものなものであり、その加害は当の学生集団でもとよりのこと、附近の学生・労働者・市民に対し無差別に加えられており、そのため一略一糟谷君に対する致死傷のほか、逮捕者六三名のうち一〇名が頭部裂傷を負っているほか、頭蓋骨折の重傷者がいるのである。その他約七割の打撲傷、裂傷、前歯欠損等の傷害を負っている。さらに当夜機動隊の暴行によって負傷し、診療を受けたものは十三病院だけで四〇名にもなり、うち数名は入院を要する重傷であった。しかも右診療を受けた負傷者の相当数はヘルメットの労働者・学生集団に続いて公園より道路上に出てきたノンヘルメットのデモ集団に所属していたものであり、機動隊の暴力行使が文字どおり……無差別に加えられる。

私は見た!

「殺せ・殺せ」と競いかかる機動隊

あの日(十三日)は機動隊の暴力行使が圧倒的で、デモ隊は一方的になぐられていた。とにかく、異常に長いと思われる時間、異常に大勢の機動隊が少しも動けない状態の人間(僕の見たのは、逃げ遅れた一人、ノンヘルメット)に対して警棒の乱打、楯によるメ

「今日の機動隊の暴力行使の特徴は……警棒、大楯、小楯を用いて、男女を問わず、デモ隊員の頭部、腰部等を激打し、単に抵抗者の抵抗を抑圧するだけにとどまらず、公衆の面前で、裂創や骨折に至るリンチ暴行を公然と遂行したという点であり、右暴行は逮捕の時のみならず連行の途上でも加えられているという点である。……(たとえば)……逮捕された女子学生を片手錠で路上をひきずりながら数人で取りこんで顔面背・足等を強く蹴り蹴りすると……非人道的な暴行を加えているのである。」



糟谷君は完全黙言で闘ったが故に、彼の本当の言葉より多くの人が聞きとらなければならぬ。……侵略と反動への力のカーブを彼の死が照らして見えているのだ。これを止める者を持つて。

告発状

特別公務員暴行陵虐致死
刑法第一九五条同一九六条

告発人 別紙記載のとおり(略)
大阪府東淀川区東長生川警察署
被告発人 荒木幸男
赤松昭雄
同 同 杉山時史
同 同 その他故糟谷君の逮捕に協力した氏名不詳の警察官数名

昭和四四年二月一三日
大阪地方検察庁 御中

告発事実

被告発人らは、いずれも大阪府東淀川区東長生川警察署の警官であるが、昭和四四年一月一三日午後六時三〇分頃、大阪市北区南扇町七番地、大阪市水道局前路上において、公務執行妨害等の被疑事実により、糟谷孝幸君を逮捕するに際し、共謀の上、同人に対し、暴行陵虐行為を加えんと企て、既に無抵抗状態にあった同人を取り囲み、路上に突き出し、足蹴りし、所持の警棒、楯等により、同人の頭部、顔面をはじめ全身にわたり、二〇回に及ぶ殴打等の残虐な暴行を加え、右暴行によって同人の右上下肢に十数ヶ所、両下腿部、両膝部、鼻部に各一ヶ所の打撲傷、左側頭部に頭蓋骨骨折、硬膜外血腫、脳腫脹、脳挫傷等の傷害を、右の頭蓋内傷害に因り、同月一四日午後九時、同人をして死亡するに至らしめ、もって警察の職務を執行に当り、刑事被疑者に対し、暴行、陵虐の行為をなし、因って人を死に致らしめたものである。

特別公務員暴行陵虐致死
刑法第一九五条同一九六条

告発の理由

一、被告発人および被害者について告発する。
二、当日の過剰警備の実態
(一)、(二)、(三)、(略)
三、逮捕時の状況とその後の経過
(一)、(二)、(三)、(略)
四、松木医師ならびに松倉教授の所見
(要旨)
糟谷君を診断ないし解剖した専門医である西医師の所見は本件の死因である脳挫傷等が鈍器による物体の打撃によるものであることを断定しているのだから、本件の凶器が警棒であるとする被告発人らの確信を裏付ける
五、死因、凶器、逮捕状況に関するわれわれの見解
(一)一略
(二)一略
凶器の性質として鈍器以外のものを考えることができない。すなわち、本件傷害の特徴は、それが頭がい、折に至る強力な打撃によるものである反面打撃力が、頭皮に対するいかなる裂創をも伴っていないところにある。

一略

(三)一略
告発人らの調査結果によれば、糟谷君が逮捕されたのは、同君が所属していたヘルメット集団が機動隊の実力行使を避けるために東方へ急速に退却していく際であり、逮捕された糟谷君が暴行を受けた後引きたたえられて、水道局前の南側歩道の機動隊列に引き入れられるまでヘルメット集団が同君を奪還した事実はなく、また奪還できる状況は全然有しなかったのである。

二略

実際ヘルメット集団は扇町公園入口の東側におり、機動隊は空間を隔てて西側の車道から歩道に待期していたのである。糟谷君に対する逮捕行為は同君所属のヘルメット集団が組織的に運動してからの同一ヘルメット集団と機動隊間に次の衝突が起るまでの時間帯に完結しているのである。

三略

我々は被告発人が下級警官であり、一個の人間として、重い人権をもつ人々であることを知っている。しかし同時に下級吏員といえども権力を行使する機関としての厳しい責務をなしていることを忘れてはならない。
糟谷君の暴行陵虐の責任は厳しく追究されるべきであり、刑事訴訟に当ってはいかなる致命的配慮も無用である。

四略

よって告発する。

三警官に告ぐ

勇気をもって真実を語れ

荒木巡査／赤松巡査／杉山巡査！
あなたたち三名が精谷孝幸を殺した犯人を知っている。この事実を打ち消すことは出来ない。真実を闇に葬ることは出来ない。

彼はこうして殺された(一)

精谷君は十三日午後六時三十分頃、行岡病院(北区浮田町)は前々から、警察御用病院として有名で、彼が同病院へ運びこまれた(午後八時四十分)初診を受けて(午後八時五十分)この時はまだ(赤松昭夫)に逮捕された。

証言によれば、そのあと彼は頭からおびただしい血を流しながら自力で歩くことが出来なまま、同病室まで約七百メートル進行されたのである。逮捕されてから、彼が同病室へ運びこまれるまで二時間、むしろにねかされたまま何ら適切な処置を施さずに放置されていた。

行岡病院(北区浮田町)は前々から、警察御用病院として有名で、彼が同病院へ運びこまれた(午後八時四十分)初診を受けて(午後八時五十分)この時はまだ(赤松昭夫)に逮捕された。

行岡病院(北区浮田町)は前々から、警察御用病院として有名で、彼が同病院へ運びこまれた(午後八時四十分)初診を受けて(午後八時五十分)この時はまだ(赤松昭夫)に逮捕された。

行岡病院(北区浮田町)は前々から、警察御用病院として有名で、彼が同病院へ運びこまれた(午後八時四十分)初診を受けて(午後八時五十分)この時はまだ(赤松昭夫)に逮捕された。

行岡病院(北区浮田町)は前々から、警察御用病院として有名で、彼が同病院へ運びこまれた(午後八時四十分)初診を受けて(午後八時五十分)この時はまだ(赤松昭夫)に逮捕された。

行岡病院(北区浮田町)は前々から、警察御用病院として有名で、彼が同病院へ運びこまれた(午後八時四十分)初診を受けて(午後八時五十分)この時はまだ(赤松昭夫)に逮捕された。

「事実を頑固であり、真実は一つしかない、対決すべき敵を見失ない、敵に恐れられぬ我々は真実を求めてどこまでも闘い抜くつもりです。今我々は、弾圧と戦うだけではない、抵抗をええ自ら放棄する危険な傾向と、精谷君を殺して、佐藤は訪米を強行し、今必要なこと、反弾圧委員会に支援を!! 長い闘いは更に、不屈に闘うが故に集中砲火をあびる労働者・学生を支援しなければなりません。精谷君の真実を一人でも多くの人達に明らかにしていくために、権力による犠牲者救済のために支援と加害を訴えます。」

12・14 糟谷孝幸虐殺抗議
人民葬
とき 12月14日 午後2時
ところ 東京日比谷野外音楽堂
主催 全国全共闘連合

同志は倒れぬ

共産主義労働者党 プロレタリア学生同盟

同志精谷は、クラスの人々も古川の人達も、メリカ・ワシントンに鮮血を染めあげて、佐藤は「太平洋新時代」を宣言する時の人となった。当に誠実であり、穏やかで率直な、平凡とさえいえる一学生であった。この彼をして、文字通り「闘争」の最前列に立たしめたものは何か。そして「何ゆえ彼は生死の線をさまよう九時間を完全黙秘で闘ったのか」このことについて守ろうとするものは何であったか。

同志精谷は、クラスの人々も古川の人達も、メリカ・ワシントンに鮮血を染めあげて、佐藤は「太平洋新時代」を宣言する時の人となった。当に誠実であり、穏やかで率直な、平凡とさえいえる一学生であった。この彼をして、文字通り「闘争」の最前列に立たしめたものは何か。そして「何ゆえ彼は生死の線をさまよう九時間を完全黙秘で闘ったのか」このことについて守ろうとするものは何であったか。

獄中からのたより

革命の勲章を胸に最後まで闘い抜く

全力を投入し、昼夜を分かたず救済活動が続いている同盟救対部の同志諸君に、先ず心から敬意を表します。

「国家総動員法」ともいうべき、狂気の弾圧体制は、一連の闘いを通じて、僕を初めとし四千余名にもなる階級の同志を獄中に連れ去り、そして既に僕を含めて数百名の同志、兄弟を拘留所、刑務所へ送っている。あまつさえ最も果敢な、徹頭徹尾革命的英魂と革命的自己犠牲に貫かれた若きプロレタリア戦士、同志精谷孝幸を血にけがれた手をもって、われわれの隊伍から永久に奪い去り、はしたものの、しかしながらわれわれの燃えたる階級の情熱と煮えたる復讐心の前にその行手を阻まれ、獄中でのわれわれの

救対アピール

十四、百円、千円のカンパを寄せて下さい。「反弾圧」を一人でも多くの人達に見せて下さい。事実と真実について語って下さい。彼がなぜ闘い、倒れかかっていたか。

今私達は、獄中で闘い、職場・学園で闘いを続けていますが、差入れ、接見、保釈、法廷闘争、情宣その他に莫大な費用が必要で、真実を伝えるもつと多くの声が必要で、怒りと支援のために私たちが支援して下さい。